

澱粉)又は濾紙の代りに被服材料である布地を使用した場合のクロマトグラフィーの可能性について研究を行なった。

前報(第15回九州家政学会)アミノ酸及び糖類を各種布地を用いてパーチジョンクロマトグラフィーを行い、その Rf 値が布地の種類によって異なることを発表した。

2. 本報告においては上昇式一次元法でクロスパーチジョンクロマトグラフィーを行なう上において基礎となる次の各項目の実験を行なった。

- (イ) 試料の塗布量の影響
- (ロ) 塗布試料の濃度の影響
- (ハ) 展開用布地の中の影響
- (ニ) 展開用布地の布目の影響
- (ホ) 展開溶剤の組成の影響

3. その結果は繊維の組成、糸の性質、布の組織などによって異なり、一例としてアミノ酸(アラニン)をアセテート布地に展開した場合、3%アラニン水溶液を0.001ml(0.03mg)塗布し布巾20mmの布地にブタノール:酢酸:水(4:1:2)の展開剤を用いた場合の Rf=0.18で再現性は良好であった。

## B-22 クロスクロマトグラフィーに関する研究 (第2報)

香蘭女短大被服 坂根 嘉子  
○樋口美智子  
東京農大 石丸 罔雄

吸着クロマトグラフィー又はパーチジョンクロマトグラフィーにおいて、固定相である充填剤(シリカゲル・